

すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました
第6号（平成19年12月30日）
発行・すそみろく編集委員会 TEL029-863-5151（NPO法人つくば環境フォーラム内）



謹賀新年
皆様のご繁栄を「祈念
申し上げます。
筑波山神社宮司 田中泰一
029-8666-0502

霊峰筑波山より
世界平和を
祈念致します。
筑波山大御堂
029-8666-0126

米つくりアイガ毛借りて無農薬
かじかんだ手に息ふきかけて
雪遊び
田井小学校校長
松崎恵美子

謹賀新年
普門寺（神郡）
029-8667-0185

田井地区の皆様のお
お仕合せを祈ります。
井坂敦實（北条）

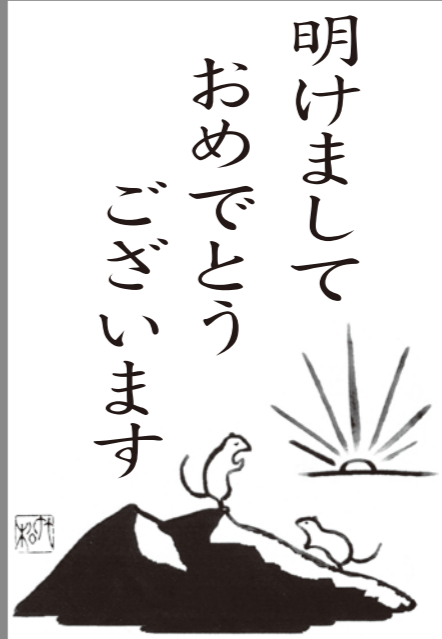
今年も元気で
水源地区での山仕事
筑波区長 齋藤靖夫

すそみろくを
応援します。
神郡区長 櫻井誠

すそみろくの編集に
多くの方の参加を
望みます。
六所区長 森田源美

すそみろくに
期待しています。
白井区長 鮎川勇一

田井地区がますます
元気になりますように
漆所区長 杉田進一



すそみろくの続刊と
充実を期待します。
館区長 飯田隆

すそみろくが
田井地区発展の
礎となつてください。
小沢区長 石田助一郎

すそみろくで地域を
盛り上げていきましょう
立野区長 鮎川清

田井地区の発展を
願っています。
杉ノ木区長 石嶋徳一

田井地区の
ますますの発展を！
大貫区長 糸賀幹男

晴耕雨読
鮎川隆雄（白井）

迎春喜福 観峯虚心
神郡山房主人（神郡）

故郷の情報をおくわくし
ながら読ませていただき、
次号が楽しみです。
土田君枝（海老名市）

外に出でて
まづ仰ぎけり
初筑波
吉江八千代（立野）

鷺舞ふ
空の深さの
榎田きよ子（六所）

すそみろくを
応援しています！
飯村清子（白井）

すそみに生まれて
よかったデス。
飯村恵子（白井）

賀春
（株）オーヤマ
029-8667-7575

謹賀新年
有限会社インテリア21
インテリアプランナー 原武志
029-8666-11056

謹賀新年
そば処 丸忠 飯田忠
029-8667-0581

筑波大学教授 出口正義

筑波大学大学院准教授
関根久雄

「すそみろく」いつも楽しみに
読んでます。
これからもよろしく！
久美子（つくば市千現）

（株）中野は今年も
がんばります！
代表 中野秀彦
029-8664-4546

（有）結エディット
029-8669-5550

細草川の谷津田で米づくり
ぜひ一緒に！
つくば環境フォーラム
田中ひとみ
029-8663-5151

今年もすてきな話題をお届けで
きるよう、軽いネットワークで、
仲良く楽しく取り組めます！
すそみろく
編集委員会
029-8663-5151

600年の歴史に思いを馳せて 折形礼法にふれる

筆者の年代（20代）で「折形」という言葉から連想するものは、千羽鶴などに代表される一般的な「折紙」だろう。しかしこれはまったく間違った認識で、それはつまり若い年代に「折形」という文化がまったく知られていないということだ。

今回、我々すそみ編集部員は、この「折形」を現在に伝える数少ない先達者の一人である、館地区在住の飯田猷子先生の下を訪れた。そこで「折形」の歴史を学び、実際に体験をさせて頂いた。「折形」とは、結婚祝いの包み、または結納祝いの包みなどをイメージして頂きたい。金と銀、赤と白等の紐で結ばれた、ちよつと華やかな包みである。おそらく、筆者



お話を伺う編集委員（中央が飯田さん、左端が筆者）

の年代層以外でも、「折形」の認識はこの程度と予想する。しかし、今回の飯田先生のお話でその文化の深淵さを知ることとなった。
はじめに、「折形」は「包む」文化で、起源は鎌倉時代にまで遡る。その文化の主役は上級武家だ。彼らは、贈進の金銭や品物を折形で包み相手に贈ったのである。包む物は、馬具や武具、化粧道具、茶道具、花など多岐に及んだ。包む紙も、最初は中国産の唐紙であったが、次第に和紙に移行した。そして水引きと呼ばれる紐で包みを結ぶ。これが基本的な「折形」である。当時は「折形」とは高級武家社会だけの秘伝の礼法であったという。しかし、武士の貧窮など時代の流れにより、江戸時代以降、次第にその秘伝の性格は失われ、町人を含む世間一般に普及することとなる。そして女性を中心継がれてきた。しかし、現在は自ら折ることはほとんど無い。コンビニ、スーパー等で買って済ませてし

まう場合がほとんどであろう。

しかし、飯田先生は言う。「売っている折形は、売る為に折られたものです。それでは折形の本質を喪失しています。折形とは八礼の心Vを表すもの。礼とは相手を想う、敬う気持ちであり、また自らを謙る気持ちです。実質的にはものを包む作法であるが、本質的には心を包むもの、それが折形なのです。」この言葉に、私は日本人の



お正月用の折形

民族性の本質を垣間見た気がした。今回教わったのは、お正月に使う鶴の箸置き、箸袋、そして松を包む木の花包みなど。飯田先生の教えて下さる通りに折るがなかなか簡単ではない。とくに一度失敗して折り目がつくとその紙は使えないとのこと緊張する。しかし、600年の伝統の重みを感じ取ることはできた。

※「すそみろく」は全労済地域貢献助成事業『都市と農村を結ぶ「すそみの森」づくり』の一環として一部助成をいただいています。

デザイン・小沢陽子（漆所地区）

伝統を喪失することは容易い。しかし、それを守ることはとても困難である。



「折形」の技術は目に見える。しかし、精神性は目に見えない。よって欠如しやすくなる。実際「折形」も過去、その危機に見舞われた。しかし、両者は不二の関係なのだ。どちらかが

欠けても真の価値は無い。現代の社会で、精神性をどう維持していくか。それは「折形」に限らず、日本の伝統文化全般の課題だ。我々は安易にグローバルイズムの波に乗せられている一方で、埋没していく日本文化がある。真の国際化とは民族と民族が互いの文化を尊重し合い、理解し合うものではないか。「礼の心」。これこそが日本の伝統文化に内在する伝えるべきものであり、誇りになりたい。せめてお正月くらいは、折形を通し礼の心を見直してみたい。

遮那宥誠(神郡地区)

蘇れ！白滝古道 — 復活に向けて挑む・第2回 —

頭にヘルメット、手にはチェーンソー、足には地下足袋や長靴を着用した勇ましい姿の男性、のこぎりや鎌を手にした女性など、およそ60名が六所児童館に集合しました。11月17日(土)の小春日和に包まれた初冬の日のことです。

お集りの方々は、昔の里山をとりもどすために、古道を修復し、復活させようという、「すそみの森づくりワークショップ」に参加した人たちです。NTTの東関東支部、環境ボランティアの方々が30名と、地元田井地区の方々、地区以外からの応

援団、そしてつくば環境フォーラムのメンバーです。前回(9月29日)に引き続き、今回も白滝へ通じる登山道の整備が行われました。ブーン、ブーン。六所神社跡から白滝へ登る山間に、力強いチェーンソーの音が響きます。作業は三つの班に分かれて行われました。道をふさいでいる常緑樹の低木を切るチーム、生い茂った竹藪を整備するチーム、松枯れで倒木しているものを処理するチームです。周辺に目を配りながら真剣に作業を進めていきます。2時間ほどすると、



チェーンソーも大活躍

多くの方々に参加していただきました。

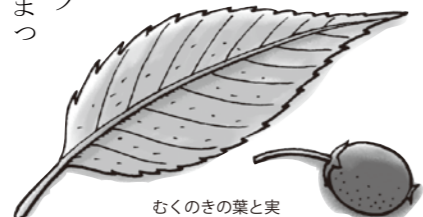
今まで歩けなかった所に、一条の道が出来て、薄暗かった森に、秋のやわらかい光が舞い降りてきました。お昼は、みたらい農園の協力で、鶏のけんちん汁、地区の女性たちのおにぎりや郷土料理を頂きました。また、井坂敦實氏(郷土史家)から、江戸時代に白滝古道を旅した人の紀行文が紹介され、改めて美しかった昔の道を取り戻したいというみんなの思いが一つになりました。白滝への道も、まだ半分を終えたばかりです。これからもたくさんの方の手をかりて、白滝古道を蘇らせ、景色のよい道に復活させていきたいものです。

上野節子(小沢地区)

すそみ・わたしのお気に入り①

さとの実(棕の木)

神郡方面から、臼井地区に入り、「栄屋」雑貨店の向いの石垣の間(鮭川隆雄氏宅)に立つ、樹齢300年以上と推測される老木がある。幹の大部分は、空洞状態だが、強風に倒れることもなく、春には新緑が生い茂り、夏には「栄屋」に日陰をつくり、秋になると黄色に色づき、葉が落ちるころには実が黒く熟す。栄屋の当主である菊地利雄さんは、毎日店を開けると目に入るのがこの樹をであると言う。最近、幹の1/3くらいの皮が付いている状態で、樹の上部の沢山のコブが大きくなっています。たので、あと何年の寿命か?と心配していると話す言葉は寂しげであった。



むくのきの葉と実

熟した実は非常に甘く、子どものころは我が家にも大きな木が表と裏にあつてよく食べた記憶がある。この甘さから、この辺では「さと(砂糖が訛った?)の実」と称するが、本名「棕の木」である。そして、棕鳥の好



樹の前に立つ菊地さん

物。また、老木には洞穴がいたるところに出来るので、フクロウやキツツキなど鳥類が多数飛来し、黄金虫などの昆虫も数多く集まった。

この樹は柔軟性と堅重な材質で、石などを叩く大きなハンマーの柄や酒や醤油を搾る道具、繊維機の材に用いられた。葉っぱは表面がザラザラで堅いので、ベトナムを磨くなど用途が多様なため、たいがい家に植えられていた。最近ほとんど見られなくなったが、六所地区の木村武男氏宅の裏庭には、樹高20メートル以上にも達する大樹がある。

森田源美(六所地区)

●「田井の水溜め」の情報を募集!

かつて蚕影山の北側の田んぼで、冬に氷を作る「水溜め」があったと聞きました。田んぼの水溜めをこ存じの方、作る場所を提供いただける方、いっしょに作りたい方など大募集です。目標は、夏に食べるかき氷?いかがでしょう。問い合わせ先「すそみろく発行事務局

新しい祭の形

第2回「田井の里の秋祭り」

11月23日24日、田井の里で新旧の文化が融合した祭が行われました。10カ所の「お祭スポット」での催し。子ども達は木の枝で作った鉛筆型のブローチに喜び、民家の縁側では甘酒を飲みながら、地元の和太鼓や中近東の楽器「ウード」の音色に耳を傾け、小春日和に穏やかな幸せを感じました。田井の谷津田米のおにぎりや地元野菜の品々、古写真展で亡き祖父の姿を見つけ感動する人。「百灯の瓦プロムナード」瓦のあかりへの変身が見事、田井小児童の自由で力強い作品は驚きです。昔の文化が残るこの里だからこそ出来る祭であり、回を重ねる毎に伝統と新しさの結びつきが驚きを持たしてくるでしょう。

石井博子(神郡地区)



大好評だったかまど炊きのおにぎり



公開された庭ではつと二息

インフォメーション

- 普門寺 除夜の鐘つき
12月31日23時から整理券配布 23時15分に順番のくじびき(当たり券あり) 23時45分から撞き始め
- 大御堂
世界平和を祈念して皆様も鐘をついてください。
12月31日22時から除夜の鐘
1月1日10時16分 新春の鐘打ち
1月18日 初観音(縁日)ご来寺になって世界平和を祈念しましょう
- 筑波山神社
初参りの皆様に甘酒のサービスがあります。
1月1〜4日 明るくなってから昼頃まで(その日の予定がなくなり次第終了します)
- 筑波山麓・霞ヶ浦水源の森づくり
1月19日(土) スギ林の手入れ作業
2月10日(日) 竹林の手入れ作業
2月23日(土) 植樹祭
3月8日(土) 間伐材でガーデングッズづくり
10〜15時/参加費900円(昼食つき) つくば駅からバスの送迎あり/大人向け実践班、親子向け体験班があります。
「問・申込」つくば環境フォーラム
029-8663-1515
- 筑波山麓自然学校 炭焼き講座
2月2日(土)〜3日(日)/大人のみ
参加費9000円(1泊4食、夜の交流会含む)/ドラム缶窯で竹炭・飾り炭づくり、燻製・ピザ焼きなども。
「問・申込」筑波ふれあいの里
029-8666-1519

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いたします。

医療法人社団 桜水会
介護老人保健施設
豊浦

〒300-4212
茨城県つくば市神郡 2013-1
TEL029-850-7111
FAX029-850-7100